

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位 目標	事業対象地域の社会福祉・保健状況が向上する
(2) 事業 内容	<p>本事業は、住民が理想とする「Healthy Village」の姿を策定・具現化する過程を支援することで、対象地域であるミャンマー連邦共和国(以下ミ国)パコク郡西部 40 村の保健状況が改善することを目指す 3 年事業の最終年にあたる。事業はプロジェクトタイムテーブルに沿って概ね予定通りに進捗しており、本報告期間(2014 年 2 月 21 日～同 6 月 30 日)においては、1, 2 年目に引き続き直接受益者であるチームメンバーの能力強化と村々の個別ニーズを満たす活動(以下特別コンセプト活動)を以下のとおり行った。</p> <p>(ア) 住民参加による「Healthy Village」を推進するためのマネージメント体制の構築および強化 村の健康に関する課題解決の実行部隊となる Village Health Development Committee (以下 VHDC) と 4 つの副委員会(保健教育、水と衛生、救急処置/患者搬送、生計向上チーム)が、チームごとに策定したアクションプラン(活動計画)に沿って活動を進めた(後述イから力の通り)。VHDC は各委員会の活動をモニタリングしたほか、ミーティングには村長ら村の自治に関わる人物に積極的に参加を促し、活動に巻き込んだ。本事業スタッフは活動を定期的にモニタリングし、チームメンバーが直面した課題解決に対する助言などを行うことで、チームメンバーのマネージメント能力の強化を図った。</p> <p>(イ) 住民の基礎的な保健知識の向上 全 40 村の「保健教育」チームが計 178 回の保健教育を開き、のべ 6,483 人(男性 35.5%、女性 64.5%)の地域住民が参加した。本事業スタッフは、チームメンバーによる保健教育をモニタリングし、その内容や教授方法について必要に応じアドバイスした。例えば、保健教育の前にチームメンバーと本事業スタッフでミーティングをもち、村のニーズにあったトピックの選定¹、各トピックにおいて特に強調すべき点や聴衆を巻き込む質問の仕方などを話し合い、チームメンバーがより効果的に保健教育を行えるよう支援した。</p> <p>(ウ) 安全な水と衛生に関する環境の改善 37 村の「水と衛生」チームが計 116 回の環境衛生活動を行い、のべ 5,765 人の住民(男性 44%、女性 56%)が参加して道の補修や掃除、木の剪定、村内の掃除を行った。また、20 村で計 40 回の水と衛生に関する地域住民への保健教育が実施されたほか、全 40 村においてハエ防止型トイレの設置が進められ、計 728 基が建設された。 3 月には「水と衛生」チームメンバーの能力強化の一環として、本事業スタッフが講師を務めてリフレッシャー研修を開催した。参加した 166 人(男性 48%、女性 52%)は水を媒介する感染症やバクテリア・化学物質による水の汚染などについてフェーズ 1 と 2 で学んだ内容を復習したほか、水のろ過方法や水の浄化剤の使い方を学んだ。水のろ過方法については、地元で手に入る素材を使った方法を本事業スタッフ(技師)が演習を交えながら説明したため、参加者から特に高い関心を得た。</p> <p>(エ) 基礎ヘルスケアへのアクセス強化</p>

¹ 内容は結核(39 回)や母子保健(38 回)、高血圧(34 回)、HIV/AIDS(31 回)、下痢(29 回)、個人衛生(26 回)が多く取り上げられた。

	<p>「救急処置/患者搬送」チームはフェーズ2において各村で設立した健康村基金(自己資金活動)²を適切に管理、運用している。本報告期間中に、55人の救急搬送患者がチームメンバーの助けを借りて病院へ運ばれ、うち治療費用を賄うことが困難な34人はこの基金から無利子で費用を借り受け、適切な治療と処置を受けることができた。この他、チームメンバーはフェーズ2で供与された応急処置キットを使って40村でのべ1,812人(男性57%、女性43%)を手当し³、12村で計24回、住民に対する応急処置方法の演習会を開いた。</p> <p>保健ボランティアである准助産師20人は、VHDCメンバーや基礎保健スタッフと連携し、出産介助や保健教育、搬送の手助け、基礎保健スタッフによる予防接種活動などを積極的にサポートした。</p> <p>5月にはチームメンバーの能力強化の一環として本事業スタッフが講師を務める資金管理研修を開催し、計187人(男性45%、女性55%)が参加して帳簿や元帳のつけ方を復習した。また、チームメンバーと基礎保健スタッフとの連携強化を目的としたミーティングを開催し、8人の基礎保健スタッフと13人の准助産師、39人のチームメンバーが参加した。同ミーティングでは、搬送基金の規則や患者搬送の手順などについて、各村の経験が共有されたほか、今後の連携促進に向けてそれぞれの役割が再確認された。</p> <p>(オ)住民の生計活動に関する知識と技術の向上</p> <p>本報告期間中、25村において計42回、住民と農業知識を共有するセッションを開き、のべ1,416人(男性45%、女性55%)が参加した。有機肥料や疫病対策など研修で学んだ新しい知識は、チームメンバーが率先して自身の畑で実践した。また、19村において、家畜知識を共有するセッションを計31回開催し、のべ1,134人(男性43%、女性57%)が参加した。各チームメンバーたちはこのようなセッション時だけでなく、家庭訪問を実施し、繁殖方法や疫病の知識を積極的に住民に広めた。本事業スタッフは各セッションをモニタリングし、内容や教授法について必要に応じてアドバイスしたほか、家畜に疫病の兆候が見られた際には家畜の隔離を助言するなど、チームメンバーの活動推進を側面から支援した。</p> <p>5月には「生計向上」チームメンバーの能力強化の一環として、本事業スタッフ(農業専門家)が講師を務める農業研修を開催した。参加したチームメンバー111人(男性60%、女性40%)は、害虫や作物の疫病、その予防法と有機肥料の作り方と使い方などを復習した。</p> <p>(カ)住民参加による各村の個別ニーズの具現化活動</p> <p>各村による特別コンセプト活動(学校建設、村内電化、コミュニティセンター建設、給水設備整備など)を実施するため、VHDCメンバーが中心となって、行政側との交渉や建設許可の取得⁴、資材購入の見積もり取得、村負担分の活動費用の住民からの集金などに取り組んだ。6月までに15村が集金を終えたほか、建設に向けた労働力の確保といった各村での調整を進めている。本事業スタッフは、進捗状況をモニタリングするだけでなく、各手続き方法について相談に応じ助言するなど、活動を側面から支援した。</p>
(3)達成された効果	<p>(ア)住民参加による「Healthy Village」を推進するためのマネージメント体制の構築および強化</p> <p>建設資材高騰(後述3.1.特記事項参照)により、特別コンセプト活動内容を当初計画から微調整しなければならない状況だが、VHDCが自主的に地域住民への説明(村の負担金増額など)と調整を</p>

² 対象地域では、病院へ行く費用をまかなえないために病気を我慢して重症化する、または病院へ行くために高利貸しに借金をして負債を負うという例が多く見られるため、各村の住民による拠出と当法人自己資金による拠出を合わせて、無利子で貸し出せる搬送基金をたちあげた。基金の一部は有利子で商業融資としても貸し出せるようにしており、利子収入を利用して搬送基金を大きくしたり応急処置キットの補充をしたりと、持続性の高い仕組みになっている。

³ 手当の種類では、ナイフや鎌による切り傷や犬の咬傷といった軽傷(1,035人)、湿疹やできもの、火傷といった肌の疾患(371人)、車の事故や転倒によるけが(294人)などが多かった。

⁴ 例えば学校を建設する場合には教育省からの、変圧器を設置する場合には行政局の許可が必要である。

	<p>進めており、本事業活動を通じ彼らのマネージメント能力が高まっていることが分かる。また、特別コンセプト活動が進むにつれて、「Healthy Village」実現に向けた住民の関心がより高まっており、それに伴い VHDC と住民の協力体制が深まっている。</p> <p>(イ)住民の基礎的な保健知識の向上</p> <p>地域住民の基礎保健知識の向上度合いについては最終的な調査結果を待つ必要があるが、「保健教育」チームによる保健教育に、これまで1世帯あたり平均3回以上の参加が確認されていることから、地域住民の保健知識が一定のレベルで向上していることが期待できる。</p> <p>(ウ)安全な水と衛生に関する環境の改善</p> <p>本報告期間中に開催した「水と衛生」チームへの研修で、事前事後テストの正答率が71%から90%に向上した。また、「水と衛生」チームによる環境改善活動に、これまで1世帯あたり平均2回以上の参加が確認され、水と衛生改善に対する地域住民の関心と意欲が高まっている。トイレ建設も順調に進んでおり、地域の水と衛生環境改善に寄与している。</p> <p>(エ)基礎ヘルスケアへのアクセス強化</p> <p>本報告期間中に開催した「救急処置/患者搬送」チームへの研修で、事前事後テストの正答率が64%から74%に向上した。また、本事業の聞き取り調査を通じ「救急処置/患者搬送」チームの役割と具体的活動が地域住民の間で広く認知されていることが確認されている。この他、連携強化ミーティングに参加した基礎保健スタッフから「救急処置と搬送の活動体制が整ったことが村人の健康を守るために非常に役立っており、本事業の活動によって村人の健康に関する情報容易に把握できるようになった」という声が寄せられた。これらのことから、基礎ヘルスケア(救急時対応や応急処置など)を地域住民がより容易に享受できる環境が整いつつある。</p> <p>(オ)住民の生計活動に関する知識と技術の向上</p> <p>本報告期間中に開催した「生計向上」チームへの農業研修で、事前事後テストの正解率が24%から65%に向上した。また、チームメンバーの多くが研修で学んだ新しい技術(例えば有機肥料など)を自身の畑で活用しており、その活用方法や生育度合に地域住民が高い関心を寄せている。</p> <p>(カ)住民参加による各村の個別ニーズの具現化活動</p> <p>建設費高騰などの予期せぬ事態にも関わらず、特別コンセプト活動は大きな遅れもなく進んでいる。地域住民からの関心も高く、平均して総費用の約3割が住民から負担される予定である(残り7割を本事業から負担)。</p>
(4)今後の見通し	<p>事業後半においても、チームメンバーの能力強化を目的とした研修を引き続き開催する。具体的には、保健教育研修(個人衛生や感染症といった基礎保健知識の復習とコミュニケーション技術)、畜産研修(家畜の飼育方法と疫病、その予防策)、ビジネス研修(帳簿のつけ方、市場と商品とコスト計算)を予定している。また8月以降、「救急処置/患者搬送」チーム代表者による処置技術を競う救急処置コンテストを実施する。特別コンセプト活動については、準備が整った村から随時開始し、来年1月中には終了する予定である。また、11月~1月にかけて各村のVHDCと副委員会とともに終了時評価を行う。終了時評価を通して、委員会メンバーたちが3年間かけて実現してきた「Healthy Village」の達成度を確認し、自らの活動を振り返って課題を分析することで問題解決能力を向上させ、事業終了後も自らの力でよりよい「Healthy Village」を目指す力の定着を図る。</p>